

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Donggang Middle School



呉市立和庄中学校



交流授業

学 年：第1学年

単元名：Unit 6 A Speech about My Brother

(NEW HORIZON English Course 1)

ねらい：互いに紹介した人やものについて、関連した質問をしたり、質問に答えたりするなどして会話を継続・発展させることができる。

日本の食べ物の紹介



Free Conversationの様子



活動内容：

①挨拶（全体）

両校の教員が簡単に挨拶と当日の流れの確認を行った。

②プレゼンテーションタイム（グループ）

両校の生徒がグループに分かれ、事前に把握した互いの興味のある内容に関するプレゼンテーションを短時間で行った。即興性を意識して、会話をさせることをねらったため、実物や写真、タブレット端末などを補助的に用いてプレゼンテーションを行わせた。

③Free Conversation（グループ）

②で行ったプレゼンテーションの内容や、これまでの交流から「もっと知りたい」、「話したい」と感じたことについてやり取りした。

※②及び③は、関心のある事柄について、相手からの質問に対し、即興で応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動となるようにした。

④フィードバック（全体）

本校教員と相手校の教員から意欲面についてフィードバックを行った。

«接続方法：zoom»

大切にしたこと

- ・生徒に事業の趣旨等を繰り返し伝え、間違いを恐れず、楽しみながら主体的に即興で話す活動として、交流を見守る姿勢を大切にすることを意識した。
- ・授業の常活動では、Small Talkを活用して、日韓両国の文化や食べ物などについて、何度も繰り返しやり取りさせ、当日の交流に自信をもって臨めるようにした。
- ・会話を継続したり、広げたり、深めたりするために、聞き返したり、確かめたりすることや、相づち、つなぎ言葉、内容に関連する質問をするなどの方策について指導した。
- ・当日は、教員が挨拶を短時間で行った後、すぐに生徒がブレイクアウトルームに移動し、プレゼンテーションやFree Conversation等、交流できる時間を十分に確保した。

交流を終えて

生徒の声

- ・第1回交流と比べ、会話が続き、楽しむことができた。
- ・アニメの話など互いの文化について、これまで習った英語を生かして話すことができた。仲良くなれて、また話したいと思った。韓国へ行ってみたいと感じた。
- ・相手が話す時、うなずいたり拍手したりするなどジェスチャーを意識した。また、自分のことを伝えた時、相手がよいリアクションをしてくれてとても嬉しかった。

先生の声

- ・生徒が嬉々として会話する様子が印象的だった。実際に外国の生徒とのコミュニケーションを通して、自分が伝えたい内容や気持ちを伝えたり、相手が言っている内容を理解したりすることでコミュニケーションを図る自信や学習意欲の向上につながることができた。
- ・少人数のグループ編成をすることで積極的に発言することができ、英語の発話量が増えた。
- ・交流授業後、日々の授業で発言に対してリアクションをしたり、自発的に質問したりする生徒が増加した。